

都心循環バス「でんでんむし」に見る利用者・非利用者像

岩手県立大学 正会員 ○宇佐美誠史
 岩手県立大学 正会員 篠木 幹子
 岩手県立大学 正会員 元田 良孝

1. はじめに

岩手県盛岡市のオムニバスタウンの主要な事業の1つである盛岡都心循環バス「でんでんむし」は、平成16年度に年間利用客数が100万人を突破し、利用者が増加し続けている。利用者が少ないためにコミュニティバス事業が困難な都市が存在する中で、なぜ、人々が「でんでんむし」を利用しているのかを明らかにすることが、本研究の課題である。これまでの先行研究において、コミュニティバスの運行によって、人々の行動がどのように変化したかといったことが主に検討されており、その点に関してはさまざまな興味深い知見が得られている。しかしながら、これまでの先行研究ではでんでんむしの利用者数を説明できているものではなく、また、どのような意識を持っている人が移動の際にコミュニティバスという手段を選択するのか、といった意識と行動の関連について検討している研究についてもあまりみられない。

そこで、ここでは平成17年12月に盛岡市内で行った意識調査から利用者像と非利用者像を描き出す作業を通じて、コミュニティバス利用に関する行動メカニズムを解明したい。

2. 調査の概要

調査票の作成に当たっては、先にも述べたように意識とコミュニティバスの選択、これらの関係がどのようなになっているのかを知ることが本研究の目的であるため、次の3点を考慮した。コミュニティバス（でんでんむし）の運行形態に対する意識、公共交通に関する規範意識、公共交通そのものに対する認識や意識である。

平成17年12月3日(土)、4日(月)の2日間、盛岡市内において調査票2000部の配布を行った。配布箇所はでんでんむしの車内(1000部配布)とでんでんむし運行エリアの主要な施設(1000部配布)である盛岡市役所、川徳デパート、中三デパート、岩手医大である。回収数(率)は892(44.6%)であった。

3. でんでんむしの利用実態

でんでんむしをよく利用している回答者は(図1, 2), 女性かつ高齢者, 自動車運転免許を持つことができない18歳以下に多いことがわかる。自動車運転免許の有無と利用の有無についてみると(図3), 免許を有していない利用者は78%であり, 有している利用者は58%であった。でんでんむしの利用頻度は(図4), 「ほ

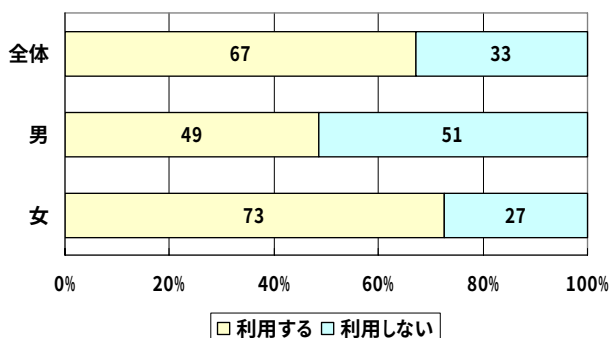


図1 性別とでんでんむしの利用

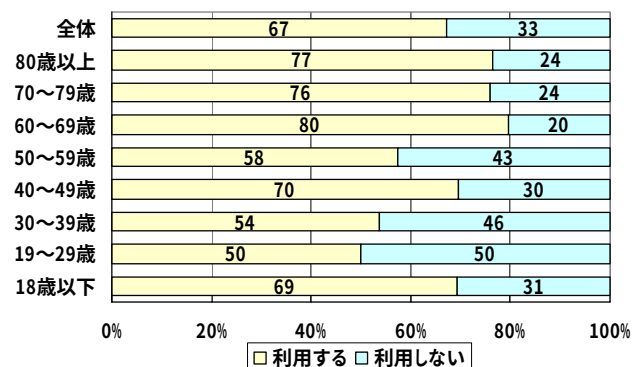


図2 年齢とでんでんむしの利用

キーワード コミュニティバス, 意識, 交通手段選択

連絡先 〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子 152-52 TEL 019-694-2830

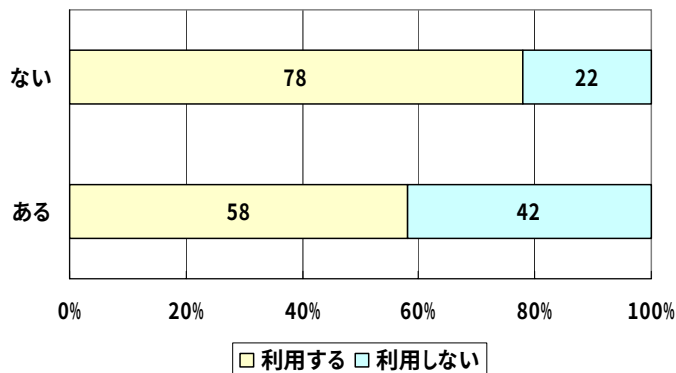


図3 免許の有無とでんでんむしの利用

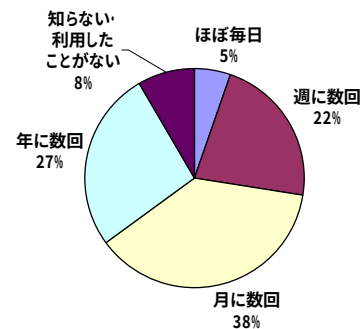


図4 でんでんむしの利用頻度

「ほぼ毎日」が5%、「週に数回」が22%、「月に数回」が最も多く38%となっている。これらを合わせれば、でんでんむし利用者の7割弱はよく利用していることがわかる。一方、「知らない・利用したことがない」は8%、「年に数回」というほとんど利用しないという回答者は27%であった。

4. でんでんむし利用と意識の関係

ここでは、でんでんむしの利用状況とでんでんむしに対する意識について概観する。

でんでんむしの利用の有無と回答者が感じているでんでんむしの親しみの程度をみると（図5）、やはりよく利用する回答者のほとんどが親しみを感じていることがわかる。しかしながら、利用しない回答者も約8割が親しみを抱いており、でんでんむしがよく盛岡に定着していることがわかる。また、でんでんむしの利用の程度とでんでんむしを利用したいと感じる状況についてみたところ（図6）、よく利用する回答者のほとんどがどのような状況においても利用すると思っている。一方、ほとんど利用しないという回答者は、「歩くと時間がかかるとき」、「ちょうどでんでんむしがきたとき」といった移動時間に関わる項目について高い反応を見せている。しかし、他の項目についても比較的割合は高く、ほとんど利用しないという回答者についても利用する可能性はないわけではないことがわかる。

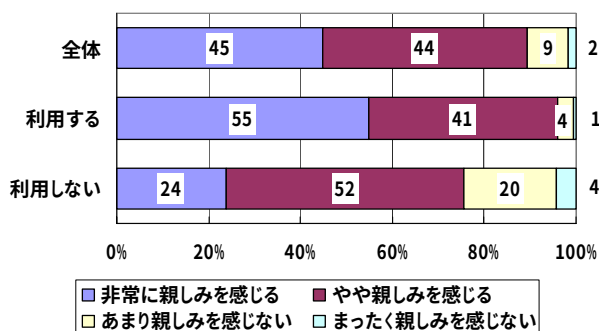


図5 でんでんむしの利用と親しみ

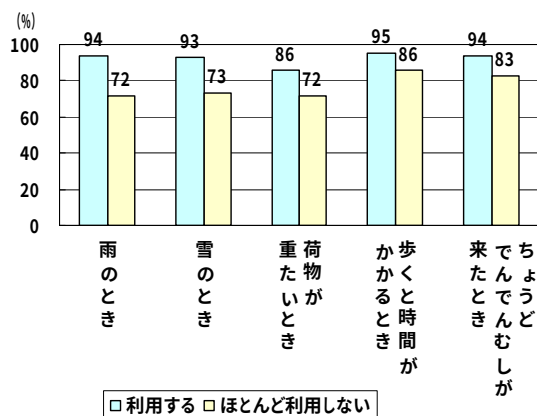


図6 でんでんむしの利用とそのときの状況

5. おわりに

本研究では、数あるコミュニティバスの中でもかなり成功している事例であろう盛岡都心循環バス「でんでんむし」を取り上げ、この成功要因を探るために、人々のでんでんむしや公共交通などに対する意識とコミュニティバスの選択の関係について着目し、盛岡市内で実施したアンケート調査を基に分析を行っている。より詳細な分析結果については、講演時に紹介する。